The Clay Science Society of Japan

粘土科学　第53巻　第２号　68－72（2015）

報　告

第58回粘土科学討論会（福島大会）報告

鈴木正哉*・万福裕造**・小林隆司***
*産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
**国際農林水産業研究センター企画調整部
〒305-8686 茨城県つくば市大わし1-1
***物質・材料研究機構広報室
〒305-0047 茨城県つくば市千現1-2-1

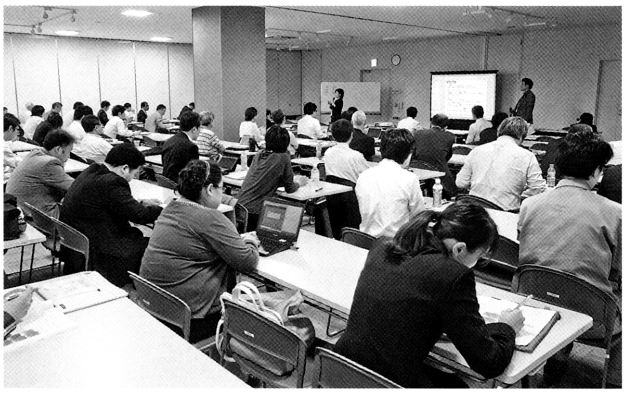
第58回粘土科学討論会（福島大会）は，平成26年９月24日（水）から27日（土）の４日間，福島市Ａ・Ｏ・Ｚ（アオウゼ）（MAX ふくしま４階）を講演会会場として開催されました．従来は３日間の開催で行なわれておりましたが，今回の討論会では，企業向けセミナーや公開市民講座を討論会中に開催することにし，１日増やしての開催となりました．日程を増やしたことに加え，実行委員が所属する場所（つくば）とは離れた福島での開催となりましたため，通常と異なり会員の皆様に多大なご協力を頂く形での開催となりましたが，皆様のご協力のお陰で大きなトラブルもなく終了することができました．まずはそのことにつきまして，会員の皆様に御礼を申し上げます．今回の討論会では，口頭発表64件（内，シンポジウム講演８件，企業向けセミナー３件，提案型セッション９件，公開市民講座６件），ポスター発表39件，合計105件の発表が行われました．討論会への参加登録者数は189名で，内訳は正会員125名（内共催学会会員15名），学生会員32名（内共催学会学生会員７名），非会員24名，招待８名でした．

討論会１日目は，12時から受付を開始し，13時より多目的ホールにて企業向けセミナーが行われました．企業向けセミナーでは，「除染実務者のための粘土の基礎知識と汚染土壌の処理・処分」というテーマにて３名の先生方に講演を頂きました．68名が参加されましたが，除染実務者だけでなく，一般の方々にも除染の実情や課題をわかりやすく解説してくださいました．講演者と講演タイトルは以下のとおりです．「放射性物質に汚染された除去土壌等への対処に係る現状と課題～大量の除去土壌にどのように対処していくべきか？～」：大迫政浩氏（国立環境研），「放射性物質除染と廃棄物減容化における粘土鉱物の役割」：八田珠郎会員（国際農研），「2011.3.11から３年半　…福島は今…」：三輪晴文氏（(株)熊谷組）．

企業向けセミナー終了後に，多目的室にて平成26年度常務委員会が開かれ，大活動室では第５回若手研究者研究発表会（通称：若手の会）が開催されました．若手研究者研究発表会においても，講師を招いての講演とポスター発表など活発な討論がなされました．

討論会２日目，開場が９時からのため受付を９時15分からと致しておりましたが，開場前に多くの方が建物入り口のエレベーター前にて待機して頂くことになってしまいました．それでも予定通り受付を開始することができ，受付では山田裕久会長・八田珠郎常務委員長にも要旨集配布の対応をして頂きました．９時45分から多目的ホールおよび大活動室の２会場にて口頭発表が行われました．今回の討論会では，開催地にて学生や契約職員のアルバイトを依頼することが不可能でしたため，コメンテーター（マイク係兼任）やベル係も正会員の方々に担当して頂き，通常の討論会では見られない状況となりましたが，皆様のご協力のお陰で問題なく進めることがで

企業向けセミナー講演


口頭発表

NII-Electronic Library Service

The Clay Science Society of Japan

きました．

午後からは,「放射能汚染と今後に向けて」というテーマにてシンポジウムが開催されました．福島での原発事故のよる放射能汚染の状況と今後の対策に向けて，８名の先生方に講演をいただき，講演終了後の総合討論では活発な討論がなされました．講演者と講演題目は以下のとおりです．「除染研究に対する粘土からの取り組み－背景と課題－(兼会長講演)」：山田裕久会員(物材機構)，「農業再生に関するこれまでの取り組み」：吉岡邦雄氏(元福島県農業総合センター生産環境部)，「被災住民の理解への取り組み」：万福裕造会員（国際農研)，「放射性 Cs を吸着している粘土鉱物は何か－電子顕微鏡による探索－」：小暮敏博会員・向井広樹会員・甕聡子氏(東大院理)，「粘土鉱物へのセシウム吸脱着機構解明－福島原発事故を通じて新しく分かったことと今後の課題－」：矢板毅氏・鈴木伸一会員・小林徹氏・池田隆司氏・松村大樹氏・町田昌彦氏・奥村雅彦氏（原子力機構)，「各種粘土鉱物の Cs の収着・脱離挙動」：横山信吾会員・中田弘太郎氏（電中研)・鈴木伸一会員（原子力機構)，「放射性 Cs の土壌粒度別分布傾向と分級による減容化への取り組み」：伊藤健一会員（宮崎大)，「溶融技術による土壌等からの Cs 分離」：阿部清一氏(元国立環境研　客員研究員)・川本克也氏（岡山大)・倉持秀敏氏・大迫政浩氏（国立環境研)．

シンポジウム終了後，討論会場近くの福島ビューホテルに移動して懇親会が開催されました．参加者数は110名（内，学生17名）で，討論会参加者の約６割の方々に懇親会にもご参加いただきました．懇親会は，元会長の坂本尚史会員（千葉科学大）による乾杯のご挨拶から始まりました．屋台での喜多方ラーメンと揚げたて天ぷらも含めた料理と地酒を楽しみながら，歓談の楽しいひとときが持たれました．歓談の合間には，若手の会代表の鈴木康孝会員（山口大)，次回討論会実行委員長の川俣純会員（山口大）のスピーチに続き，今回の討論会開催に際して協力して頂いた蛯名武雄会員（産総研)，犬飼恵一会員（産総研)，三好陽子会員（産総研)，平林恵理会員（産総研）に一言話していただきました．宴たけなわでございましたが，八田珠郎会員（国際農研）の中締めで閉会しました．

討論会３日目は，９時30分から２会場にて一般講演の口頭発表が行われ，11時からは多目的ホールにて総会が開催されました．総会では，伊藤健一会員（宮崎大）を議長として，山田裕久会長の挨拶，報告事項，審議事項，学会賞等の表彰が行われ，最後に黒田一幸新会長の挨拶にて終了いたしました．学会賞等の受賞者は以下の通りです．学会賞：南條正巳会員，功績賞：黒崎白土工業株式会社会員，奨励賞：宮元展義会員，技術賞：伊藤佑輝会員，太平洋セメント株式会社会員（本間健一会員)，論文賞（粘土科学)：中林亮会員・木嶋達也氏・塚田康元氏・佐藤努会員・大竹翼氏・金子勝比古氏・米田哲

シンポジウム講演（兼会長講演）

懇親会乾杯の挨拶

シンポジウム講演

懇親会

NII-Electronic Library Service

The Clay Science Society of Japan

朗会員，論文賞（Clay Science）：東正治会員，学術振興基金賞：佐藤成美会員・伊藤紗由未会員．

午後は13時から交流広場で39件のポスター発表が行われました．多数の方々にご参加いただき，活発な討論が行われました．ポスター発表の後，14時30分から２会場にて一般講演の口頭発表が行われ，後半は提案型セッションが企画されました．提案型セッションの題目は，Ａ会場：「粘土科学若手の会」（提案：鈴木康孝会員・黒田義之会員・田中俊行会員・三好陽子会員），Ｂ会場：「地質フィールドにおける粘土と鉱物」（提案：宮脇律郎会員）でした．提案型セッションでは招待講演として，三好陽子会員（産総研），井上紗綾子会員（東大），黒田義之会員（東大），福原直基会員（北大），山崎誠子氏（産総研）による研究発表も行われ，活発な議論がなされました．

そして18時より多目的ホールにて，公開市民講座が開催されました．テーマは「粘土とセシウム」．飯舘村村長の菅野典雄氏の開会挨拶に始まり，６件の講演が行われ，川俣町町長代理の伊藤智樹副町長の閉会挨拶で締められました．一般市民の方も含め，会場には約80名の方々が参加され，熱心に講師の方々の講演を聴かれていました．講演者と講演題目は以下のとおりです．「取り組みの現状」：福島伸一郎氏（復興庁福島復興局），「粘土への吸着」：横山信吾会員（電中研），「ため池」：鈴木正哉会員（産総研），「パッシブ除染」：佐藤努会員（北大），

ポスター発表

ポスター発表

総会

公開市民講座

総会（新会長挨拶）

公開市民講座

NII-Electronic Library Service

The Clay Science Society of Japan

見学会（川俣町）

見学会（浪江町請戸地区）

見学会（浪江町酒田地区）

見学会（飯舘村）

「焼却」：八田珠郎会員（国際農研），「今後に向けて」：山田裕久会員（物材機構）．

討論会４日目は，放射性物質に汚染された地域および除染現場等の見学内容にて，福島県浪江町，川俣町，飯舘村を見学しました．当初定員を30名と致しておりましたが，その後も参加希望がございましたため定員を増やし，最終的に37名の方々にご参加いただきました．見学場所および除染の状況等については，万福裕造副実行委員により案内されました．福島駅西口バスターミナルを８時過ぎに出発後，９時30分頃に川俣町に到着し除染現場を見学しました．次に浪江町に移動し酒田地区にてお米を栽培している営農試験現場を見学した後，浪江町役場に立ち寄り請戸地区の津波被害現場を見ました．南相馬の道の駅にて昼食をとった後，飯舘村役場に立ち寄り飯舘村除染現場および苺生産ハウスを車内から見ました．15時頃福島駅西口バスターミナルにて解散となりました．

日本粘土学会と致しましては，東日本大震災に伴う原発事故直後から「粘土鉱物等の無機材料を利用した放射能汚染の修復」（粘土科学第50巻第２号掲載（2011））など，除染を含め放射能汚染の問題に取り組んで参りました．これまでの研究成果も含め放射能汚染の問題を再度考えるにあたって，福島にて粘土科学討論会を開催する運びとなりましたが，企業向けセミナー，シンポジウム，公開市民講座を通じて討論を行うことができました．

討論会の開催にあたりましては，日本粘土学会の会長・副会長・常務委員長，そして常務委員会委員・評議員会委員の方々，さらに討論会の準備および開催にあたり事務局の土信田裕子氏には大変お世話になり，ありがとうございました．また今回の討論会にて，座長・コメンテーター・ベル係をお引き受けくださいました会員の方々にも，心より御礼申し上げます．人手が足りませんでしたため，ポスター会場の設営をしてくださった若手の会の会員の方々や，受付を手伝ってくださった有志の方々にも，心より御礼申し上げます。そしてこの度の福島での討論会開催にあたり，多くの関係企業の皆様方からご援助を頂きましたことに，この場をお借りして厚く御礼申し上げます．最後になりましたが，ご多忙中，福島大会にご参加いただきました皆様に感謝いたしております．ありがとうございました．

NII-Electronic Library Service

The Clay Science Society of Japan

学会賞：南條正巳会員

技術賞：太平洋セメント株式会社会員
（本間健一会員）

功績賞：黒崎白土工業株式会社会員

論文賞（粘土科学）：中林亮会員・木嶋達也氏・塚田康元氏・佐藤努会員・大竹翼氏・金子勝比古氏・米田哲朗会員（写真は佐藤努会員）

奨励賞：宮元展義会員

論文賞（Clay Science）：東 正治会員

技術賞：伊藤佑輝会員

学術振興基金賞：佐藤成美会員

NII-Electronic Library Service